

## 第2講 計算のきまり(その1)

□ にあてはまる□、○、△の記号を書きましょう。

①  $\square + \bigcirc = \bigcirc + \square$       ②  $(\square \times \bigcirc) \times \triangle = \square \times (\bigcirc \times \triangle)$

③  $(\square + \bigcirc) \times \triangle = \square \times \triangle + \bigcirc \times \triangle$

④  $\square \times (\bigcirc + \triangle) = (\square \times \bigcirc) + \square \times \triangle$

上の①②③④の各問について、計算の意味を考えよう。

- ① たし算で、たされる数と、たす数との和は、  
( ) ても、その和は等しい。
- ② 3つの数□、○、△の積で、最初の2数の積に、第3の数を掛けた大きさは、  
( ) に、( ) の積を掛けた数に等しくなる。
- ③ 掛けられる数が、2数の和と見られるとき、掛ける数を、  
( ) の両方に、掛けておけば、元の積の大きさに等しくなる。
- ④ 与えられた式の両辺を、 $\square \times \bigcirc = \square \times \bigcirc$  と比べて見ると、  
左辺；掛ける数が( ) だけ大きくすると、  
右辺；掛けられる数と増加分(△)との積だけ大きくなる。(分配法則の別の見方)

⑤ つぎの文章は、計算の仕方を述べたものである。使われた計算のきまりが③の①②③④にあれば、数字を( )の中に記入し、無ければ適切な文章を入れなさい。

- 1)  $100 \times 6 (= 600)$  を知っているとき、 $102 \times 6$  の計算をするには、 $600$  に、  
 $2 \times 6 = 12$ 、を加えておけばよい。  
( )
- 2)  $450 \times 4 = 1800$  であるので、 $450 \times 4.2$  は、 $1800$  と  $450 \times 0.2$  をたす。  
( )
- 3)  $4800 \times 1.25$  は、 $8 \times 1.25 = 10$  であり、 $4800 = 600 \times 8$  であるので、  
 $4800 \times 1.25 = 6000$   
( )
- 4)  $280 \times 3.2$  は、 $280 \times 32 = 8960$  であるので、掛ける数を10倍しておいて、  
あとで、10で割っておけばよい。  
すなわち、 $280 \times 3.2 = 8960 \div 10 = 896$   
( )
- 5)  $236 + 48$  は、 $36 + 48 = 84$  であるので、 $84$  に  $200$  たせばよい。  
( )